

### ▼ 納会リベンジヨットレース

10月21日日曜日の納会レースが流れてしまったことを受けて11月4日リベンジレースが行われた。外帆の正式なレースには含まれないが出場全7艇で入舟沖スタート・フィニッシュで、七重浜沖の黄色・緑色ブイを2周してのコースセッティング、無論本部艇は前回の責任を感じペガサスが引き受けました。(拍手)

Dプロの亀谷氏NYXの桜庭氏西島氏を引き連れいざ海面へこの時期やはり風はそこそこあるものの10/21よりは海面は穏やかであった。

レース中じっと耐え抜いた本部艇の面々であったが「これならレースに出ての方が良かった」と後悔しきり、1時間半でレースは終了したがすっかり身体の芯まで冷え切ってしまった。

クラブハウスに戻るとこれまたこの時期恒例の“おでん”である。石川理事長率いる腕自慢による前日からの仕込み、外帆の連携は素晴らしいものがあると感心し熱々おでんを頬ばるのであった。

その後の結末は皆さんご存じのとおりである。

### ▼ ちょっと早めの大掃除

11月11日日曜日本日は外帆のクラブハウスの大掃除である。それに乗じポンツーンのチェーンを取り替える作業も行くと泊地委員長高橋氏から前回の理事会で発せられた。最初は何人くらい集まるのかなあと9時30分頃ポンツーンに行ってみると4人程度が黙々と作業を行っていた。

しかし10時頃から続々と人が集まりだしポンツーンの上は夏さながらのにぎわいを見せていました。その最中クラブハウスでは、管理委員長前田氏の号令の中レースの備品や2Fの書棚の整理などを手際よく済ませ、昼食の準備へ・・・。

やせ細ったチェーンをレッコし一部新しくなったポンツーンにより今冬は安心して過ごせることでしょう。

今回も満を辞して“クマキチ”の登場であったかシチュ〜とボンゴレパスタで身も心もしあわせ〜。

“酔鯨”の差し入れもあり、またもクラブハウスは宴会場へと変貌を遂げるのでありました。

### ▼ お待ちかね

2011年春沖縄から帰函する“マイウェイ”の航海の始まりです。全文小松夫妻からの投稿によるものでノンフィクションであります。

### 沖縄から函館へ ヨット<マイウェイ>の航海

約4ヶ月以上過ごした沖縄から離れる日も近づいてきました。多くの人と知り合い、珍しい体験もでき、短い期間でしたが我々4人(つらら、あられ、由美子、基衛)は幸せな時間を過ごすことができました。これから函館まで3ヶ月。港、港に寄りながらの航海の記録です。稚拙な文章ですが何かの折に読んでいただければ

幸いです。

4月8日(金) 晴れ

念願かなって座間味へ。勿論<マイウェイ>に乗ってである。8:45出港。南南西、風力2~3。絶好のコンディションだ。14:30到着。水の色、透明度ともに溜息がでるほどの素晴らしさだ。ただただうっとりするだけ。



4月9日(土) 曇り

古座間味(ふるざまみ)ビーチでシュノーケリングに挑戦。泳いでいるのは私一人だけである。4月初めでも函館の真夏より暖かいのだ。

4月13日(水) 晴れ

函館へ戻る航海の準備を少しずつ始める。燃料を満タンにしギアオイルとエンジンオイルを交換。オイルフィルターの交換。プロパンガスの充填。ルートの見直しやチャートのチェック。GPSへの入力。徐々に緊張感も高まってくる。

4月16日(土) 曇り

今夜は日本で一番早いといわれている宜野湾の夏の花火大会の日だ。<マイウェイ>にはゲスト多数。なかなかの花火である。函館といい勝負?うーん、難しいところだ。

4月21日(木) 晴れ時々曇り 東の風 風力4~5

宜野湾を離れる日がきてしまった。09:00出港。大鹿氏、仲野氏、中野氏、谷津田氏、リエちゃん、マーちゃん、小塚氏、西門氏、三浦氏、浅沼夫人が見送ってくれる。又いつか会える日がくるといい。本当にお世話になりました。伊江水道を過ぎる頃から風が上がってきた。真夜中、沖永良部島沖を通過。22日08:00徳之島亀徳港に到着する。

4月22日(金) 曇り 徳之島 亀徳港

前回寄港した時と同じように港にいる人たちは皆親切だ。昨年お世話になった久志氏のお母さんも岩壁を散歩中。「ヨットが見えたから出てきたんだよ」と言っていたが虫の知らせなのかもしれないね。EGS滝野氏とダイレクトにコンタクトできた。感度が非常に良い。



4月24日(日) 晴れ 亀徳→奄美大島 古仁屋港

5:30に起床し7:30に出港。起きてから出港まで2時間あるとゆっくり食事をして落ち着いて出港の準備ができる。トイレも済ますことができるのだ。はじめ西の風、風力2、後風力3~4。快走である。15:00ゲストバースに着岸。葛西氏が出迎えてくれる。

4月27日(水) 雨 古仁屋港

到着以来天気が悪く、古仁屋に停泊中である。隣に停泊中の福岡のヨットのオーナー金子氏や葛西氏と一杯飲みをしたり、本土から移住してきたという義(よし)ご夫妻とおしゃべりをしたり、艇の点検をしたり買い物をしたりして過ごしている。今日は雨が少し弱くなったので、フェリーに乗って向いの加計呂麻島の観光である。生間(いくしま)まで20分、260円。ここは「男はつらいよ」のロケ地。浅丘ルリ子扮する「リリーの家」もあるのだ。夕方、義夫妻に誘われ、ホテルの五右衛門風呂に入り4人で食事。奄美名物「鶏飯(けいはん)」を初めて食べる。不思議な味。夜、前線の通過で雨が降ってきた。

4月28日(木) 29日(金) 晴れ 古仁屋→宝島 前籠(まえごもり)港

北西の風が結構吹いているがなんとか出られるだろう。義氏が自家製のラッキョウの酢漬けとブタ味噌を差し入れてくれる。16:00出港。オーバーナイトで宝島を目指す予定である。北西の風、風力4~5。義氏がモーターボートで途中まで見送ってくれるが20フィートにはきつい波だ。大島海峡を抜けるまで機帆走。外洋に出ると波と風が一段と強くなってきた。3ポンのメインと小さくしたジブで帆走する。ネコたちは段ボール箱の中で2匹抱き合い丸くなっているのだ。29日11:00、前籠港到着。港内には漁船2隻いるのみ。



4月30日(土) 曇り後雨 前籠

島内をウォーキング。ヨットの生活では運動不足になりがちなのでチャンスを見つけ極力運動するように心がけているが、今日は少し距離を延ばしてみた。東方向へ歩く。波打ち際から100メートルくらい内陸まで海浜植物の素適なお花畑が広がっているのが見える。